

深呼吸自然にも

奥入瀬渓流

Oirasekeiryu Eco Tourism Project

エコツーリズムプロジェクト

2008実施報告書

奥入瀬渓流利用適正化協議会
奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会



奥入瀬渓流

Oirasekeiryu Eco Tourism Project
エコツーリズム・プロジェクト
2008実施報告書

目 次

マイカー交通規制試行結果

1.規制の概要	02
2.試行結果の概要	02
3.マイカー交通規制実施風景	03
4.来訪者アンケート結果	04
5.マイカー交通規制の目的・背景	05

マイカー交通規制 併催イベント報告

1.奥入瀬渓流ボランティアガイドウォーク	06
2.電気自動車展示・試乗	07
3.物産展	07
4.ステージイベント	08

奥入瀬渓流エコツーリズムフォーラム2008 開催報告

新聞掲載記事	10
--------	----



はじめに

奥入瀬渓流は、十和田八幡平国立公園の中でも最も保全基準の厳しい特別保護地区に指定されており、元来自然環境を良好に保全すべき地区です。

奥入瀬渓流利用適正化協議会では、自然環境保全と渋滞解消を目的とし、平成15年、16年に各2日間、マイカー交通規制を試行しました。その後、迂回路となる七曲区間において落石等が発生し休止しておりましたが、その対策が完了したため、平成20年10月18日(土)、19日(日)の2日間にわたり、4年ぶりに実施するはこびとなりました。

大きな混乱もなく、本報告書を発行するに至ったことを、観光客の皆様や関係機関各位に厚く御礼申し上げます。

マイカー交通規制の試行は、自然環境保全や渋滞解消につながるだけでなく、本来の自然美や渓流美をそのままに活かす環境が創出される取り組みです。

その環境を観光振興に活かすため、今年は初の試みが同時に行われました。奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会では、渓流ボランティアガイドウォークをはじめとする併催イベントを実施し、また、十和田湖遊覧船や地元商店街等の皆様からは、シャトルバス利用者への特典サービスをご提供いただきました。

当協議会では、将来のマイカー交通規制の本格実施に向け、毎年試行を継続し、さまざまな課題の把握と検証に努めることにしています。

同時に関係機関と協力・連携し、また地域の皆様のご理解を得ながら、自然環境保全としてのマイカー交通規制と観光振興の両立を図っていきたいと考えております。

来年度以降のマイカー交通規制実施に際しても、皆様のご理解とご協力、ご支援をよろしくお願ひ致します。

平成20年11月

奥入瀬渓流利用適正化協議会 会長
十和田市長 中野渡 春雄

平成20年 マイカー交通規制試行結果

4年ぶりとなった奥入瀬渓流マイカー交通規制。紅葉最盛期の実施は今回が初めてでしたが、大きな混乱もなく、天気にも恵まれ、多くのお客様をお迎えすることができました。

皆様に親しまれる取り組みとして定着するよう、来年度以降も継続して実施を予定していますので、ご理解とご協力をお願いします。

1 規制の概要

試 行 日 時	H20.10.18(土)	H20.10.19(日)
気 象 状 況	晴れ	晴れ
規 制 時 間	9:00~16:00	
規 制 車 両	マイカー車両 (バス、大型・普通貨物、タクシー除く)	
シャトルバス	焼山～休屋 20分間隔 500円(往復1,000円)	
無料駐車場	焼山(計3箇所: 408台) 休屋(計4箇所: 1,224台)	



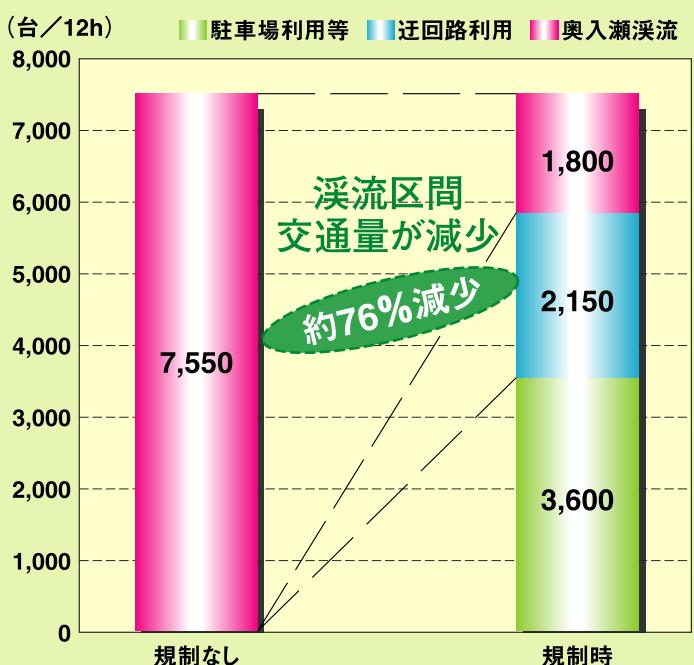
2 試行結果の概要

シャトルバス利用者数

10月18日(土)	1,227人	10月18日(土)	約1,600台
10月19日(日)	1,725人	10月19日(日)	約3,000台
合 計	2,952人	合 計	約4,600台

駐車場利用台数

渓流区間の交通量は約76%(約57百台)減少(H20.10.19調査結果)



温室効果ガス・大気汚染物質が大幅に減少

マイカーを規制したので渓流区間の交通量の減少により、温室効果ガス(CO₂)、大気汚染物質(NO_x)が大幅に減少しました。

■CO₂排出量



単位(t-CO₂/日)

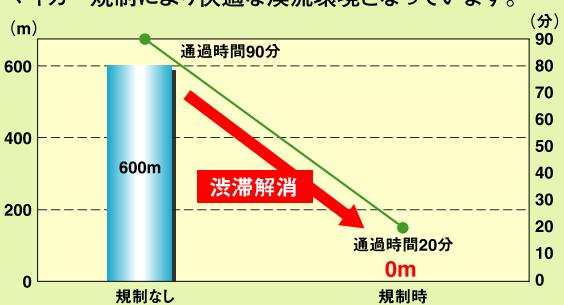
■NOx排出量



単位(g/日)

渋滞が解消

交通量の大幅な減少により、渋滞が解消しました。
マイカー規制により快適な渓流環境となっています。



※7:00～19:00の12時間交通量で比較

※2、「規制なし」とは、当日規制を実施しなかった場合に想定される交通量推計値

3

マイカー交通規制実施風景



シャトルバス運行状況



奥入瀬渓流子ノ口交差点



規制実施中の渓流区間



規制実施中の渓流区間



規制実施中の渓流区間



規制実施中の渓流区間



規制実施中の渓流区間



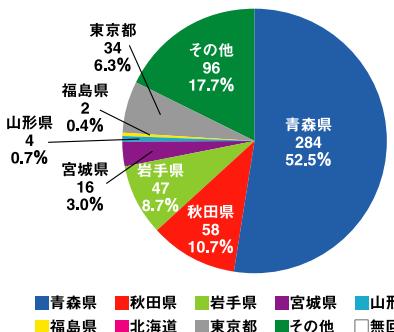
規制実施中の渓流区間

[平成20年10月22日(水) デーリー東北新聞社提供]

4 来訪者アンケート結果

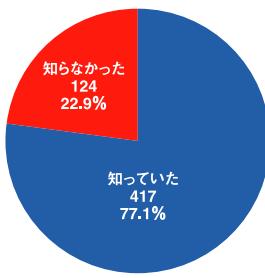
多くの方々が足を止めてアンケートに答えてくださいました。ご協力ありがとうございました。
結果の一部を紹介します。

【住所】



【マイカー交通規制実施の事前認知】

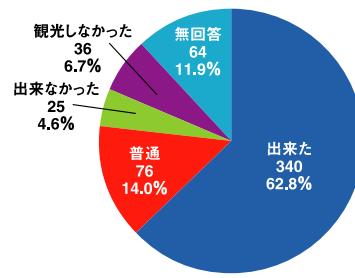
マイカー交通規制があることを知っていましたか？



■知っていた ■知らなかった □無回答

【交通規制の感想】

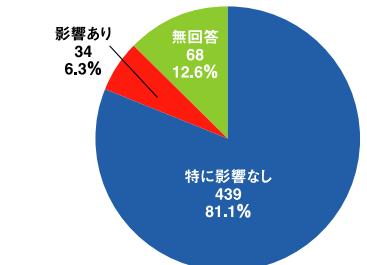
ゆっくり落ち着いて鑑賞できましたか？



■出来た ■普通 ■出来なかつた
■観光しなかつた ■無回答

【交通規制の感想】

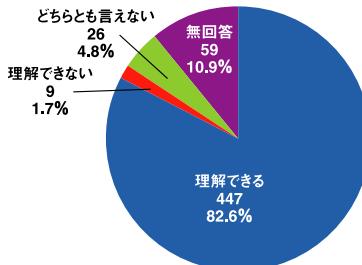
観光にマイナス的な影響はありましたか？



■特に影響なし ■影響あり ■無回答

【交通規制の感想】

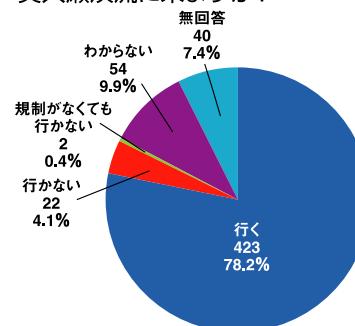
渋滞解消や環境保全のための交通規制について理解できますか？



■理解できる ■理解できない ■どちらとも言えない
■無回答

【今後もマイカー規制を実施した場合】

今後もマイカー規制を実施した場合奥入瀬渓流に来ますか？



■行く ■行かない ■規制がなくても行かない
■わからない ■無回答

【フリーアンサー】

- 昨夜テレビ報道でマイカー規制のことを知り、今朝秋田市より出てまいりました。オールシーズンに向けて実施される方向にされるといいのではないでしょうか。今日は本当にありがとうございました。(60歳以上・男性・秋田県)
- いつも混んでいる紅葉時期はさけていたけど、シャトルバスが20分ごとにあると知り急ぎよ来ることができました。とてもよいことだと思います。(50歳代・女性・青森県)
- 車の音がなく奥入瀬の瀬音も良く聞くことができた。空気が違うように感じた。オートバイの騒音がひどかった…次回は是非、オートバイも規制してほしい。(40歳代・女性・青森県)
- バイクの規制もあった方が良い。エンジン音がうるさく、景色を楽しめただけに残念に感じた。マイカー規制を今後もつづけて欲しい。ボランティアスタッフの皆様おつかれさまでした。(40歳代・女性・青森県)
- マイカー交通規制がずっとあるといいと思います。シャトルバスは便利でした。車が渋滞ではせっかくのきれいな景色もだいなしなので、今回この規制の時にきてよかったです。案内してくれた方もとても親切でうれしかった(黄色いジャンパーの方)。また来たいです。(30歳代・男性・秋田県)
- 皆様が一生懸命されているお姿に感動しました。小さな力であっても少しずつ頑張ればきっと環境問題も解消していくと思います。(50歳代・男性・兵庫県)
- 来年、春にまた来ます!(50歳代・男性・神奈川県)
- シャトルバスも時間的に多くあり、ボランティアの方も親切でいろいろ聞きやすかった。(50歳代・女性・静岡県)
- バスの時刻表があると良かった。迂回路の案内が不十分。(30歳代・女性・青森県)
- 路線バスも利用できるとのことで利用したが、利用方法等についての案内は不十分であった。事前に案内できるよう徹底されていない。(40歳代・男性・青森県)
- 帰りのバスの時間が気になる。もう少し遅い時間もあつたらゆっくりできると思います。(50歳代・女性・青森県)

5 マイカー交通規制の目的・背景

豊かな自然を快適に味わうために

奥入瀬渓流は、車で気軽に立ち寄ることができる国立公園である反面、観光シーズンは観光車両が殺到し、渋滞を引き起こしています。また、路上駐車やアイドリングしたままの車両も多く見受けられ、奥入瀬渓流の自然環境はもちろん、散策（ウォーキング）をしている利用者の方々にも決して良い環境とは言えません。

奥入瀬渓流利用適正化協議会では、「自然環境保全と渋滞解消」を目的とし、マイカー交通規制の試行に取り組んでいます。しかし、迂回路において大型車がすれ違い困難であることや、渓流沿いの国道102号は、もともと地域の生活道路や産業道路としての物流機能も担っています。

このため、規制車種や期間の拡大のためには、さまざまな課題が残っており、今後毎年の試行を継続しながら、定着を図っていくことが大切です。



マイカー交通規制中の奥入瀬渓流
[平成20年10月19日(日) デーリー東北新聞社提供]

マイカー規制実施地域

全国の有名な観光地で導入されています。

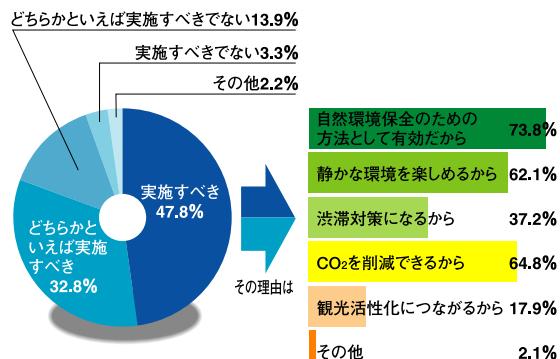
道・県	導入している観光地
北海道	知床 (国道343号、シーズン時／北海道道87号知床公園羅臼線及び北海道道93号知床公園線・通年)
岩手県	早池峰山 (岩手県道25号業波川井線、シーズン時)
秋田県	秋田駒ヶ岳 (秋田県道127号駒ヶ岳線、通年)
福島県 新潟県 群馬県	尾瀬 (群馬県道・福島県道1号沼田松枝岐線他、通年)
静岡県 山梨県	富士山 (富士スカイライン及び富士スバルライン、シーズン時)
長野県	上高地・木曽駒ヶ岳 (長野県道75号駒ヶ根駒ヶ岳公園線、通年)
長野県 岐阜県	乗鞍岳 (乗鞍スカイライン及び長野県道84号乗鞍線、通年)
富山県	立山 (高山県道6号富山立山公園線、通年)

約8割の県民の方々は、
マイカー規制を実施すべきとの意見です

— H20.9 県政モニターアンケートより —

あなたは、今後も過去に実施したようなマイカー交通規制を実施すべきだと思いますか(回答は1つ)

「実施すべき」「どちらかといえば実施すべき」と回答された方にお聞きします。そのように思う理由は何ですか。あなたのお考えに近いものをお選びください。(回答は3つまで)



「マイカー交通規制通年化」と 「安全な道路交通確保」のため、 青森山バイパスが必要です。

現在のマイカー交通規制迂回路(七曲区間)は、急カーブ、急勾配が連続し、大型車のすれ違いが困難です。このため、やむを得ず大型車は渓流沿いを通行してよいこととしています。

また、奥入瀬渓流や七曲区間では、過去に度々落石や土砂崩落が発生しているほか、迂回路は冬期閉鎖となるため、青森山バイパスの整備が急がれています。

マイカー交通規制 併催イベント報告

奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会では、マイカー交通規制の実施に併せて、青森県立十和田西高等学校の協力による渓流ボランティアガイドウォークや、電気自動車の展示・試乗会などを実施しました。

初めての試みでしたが、多くのお客様にご来場いただき、盛況のうちに終えることができました。

マイカー交通規制は、奥入瀬渓流の自然美や渓流美を本来の自然の状態に近い形で味わうことのできるまたとない機会です。

十和田湖・奥入瀬渓流の自然を大切にしつつ、その環境を存分に楽しめるこの取り組みが、新たな観光振興のきっかけになればと考えています。

試行日時	H20.10.18(土)	H20.10.19(日)
気象状況	晴れ	晴れ
来場者	約2,000人	約4,000人
渓流ボランティアガイドウォーク参加者数	48人	49人
電気自動車試乗者数	126人	126人
物産展出展者	休屋地区、十和田市内から9店舗	
環境企画展	環境省、青森県、十和田市	

1 奥入瀬渓流ボランティアガイドウォーク

多くのお客様に奥入瀬渓流のすばらしさを体感していただくため、青森県立十和田西高等学校2年生によるボランティアガイドウォークが実施されました。生徒の皆さんはこの日のために、プロのガイドによる講習や実地研修を受け準備してきました。高校生にとっては緊張の中にもお客様と直に接することの楽しさがありました。

マイカー交通規制中の渓流環境を演出する取り組みとして、今後もより多くの皆様に足を運んでいただくため、地元高校生の若さと明るさで、ガイドウォークの定着を図っていきます。



受付風景



ガイド風景



ガイド風景



ガイド風景

■ウォークコース

所要時間／約2時間10分
石ヶ戸～雲井の滙（60分、約2.6km）

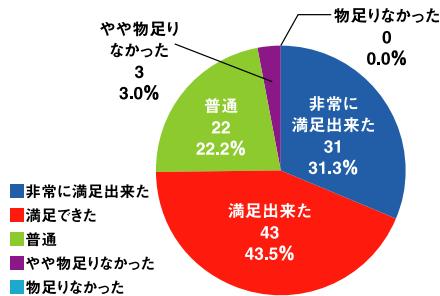
■参加費

大人／300円 子供／100円

奥入瀬渓流散策



【ガイドウォークの感想】



●高校生のガイドの皆さんのが、すれちがう方にあいさつを交わし、さわやかな気分で大変よかったです。おかげさまで3km以上も疲れを感じられず感謝いたします。退職しましたら全コースを歩いてみたいのでまた来ます。(50歳代・女性・宮城県)

●子供達がいつしょくんめい説明してくれた。一人ではわからないことがガイドでとても楽しかった。(50歳代・女性・東京都)

●高校生の声が小さい。(50歳代・男性・東京都)

2 電気自動車展示・試乗

奥入瀬渓流の環境問題、自動車利用のあり方を考えていただくことを目的として、休屋地区イベント広場周回コースにおいて、来年度デビューする電気自動車の展示・試乗会を開催しました。



3 物産展

十和田湖・奥入瀬の大自然に育まれた恵みの数々を取り揃えた「物産展」や、無料振る舞いコーナーが用意されました。



4 ステージイベント



十和田湖伝説～八の太郎と南祖之坊の戦い～（十和田湖小学校）



よさこい演舞（とわだ・馬花道）



八甲田吹奏楽団コンサート



八戸ジャズクインテッドコンサート



郷土芸能（沢田鶴舞）



十和田水神雷太鼓



溪流ボランティアガイド紹介（青森県立十和田西高等学校）



陸上自衛隊音楽隊コンサート

奥入瀬渓流エコツーリズムフォーラム2008 開催報告

マイカー交通規制に先駆けて、「奥入瀬渓流エコツーリズムフォーラム2008～奥入瀬渓流世界遺産登録研究～」が開催されました。約300名の来場者を迎えて、永続的な自然環境保全のあり方について、市民の皆様と一緒に考える機会となりました。



日時 平成20年9月28日(日) 15:00～18:00

場所 十和田市民文化センター

主催 NPO法人十和田奥入瀬郷づくり大学

共催 奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会

基調講演

三村 三千代 氏

(八戸短期大学客員教授)



「奥入瀬渓流の光は私たちの手で」

- 明治41年8月に文人『大町桂月』が十和田湖を訪れたが、奥入瀬渓流や松見の滝、小坂銅山、毛馬内まで足を伸ばしました。まさにしつこいばかりの景勝地への執念は見習わないといけません。観るべきところは全て観る努力を重ねるすばらしい人です。
- そこで、大切なことは、まず地元の人たちが奥入瀬渓流を愛し、知り、そして美しさや魅力を直に肌で触れ合い、実感することこそが必要であり、それによって観光客をはじめ、他の方々に自信をもって伝えることができ、ひいては奥入瀬渓流の世界遺産登録にもつながるのではないかでしょうか。

パネルディスカッション

「奥入瀬渓流のゆたかな自然を守ろう！」

コーディネーターに佐藤正昭氏（青森公立大学副学長）を迎え、「奥入瀬渓流のゆたかな自然を守ろう！」と題し、パネルディスカッションが行われました。



川口 浩一氏
(株)青森テレビ
報道制作局放送部長

- 三本木高等学校の校歌を作詞した詩人の佐藤春夫氏が来県した際に、十和田湖のすばらしい美しさにいたく感動したそうです。
- 「奥入瀬渓流のうた」は、銚子大滝付近の自然石に刻み込まれていますが、コケで碑文が見えない状態なので、勿体ない。是非善後策を講じて欲しいと思います。



小林 孝男氏
画家

- 奥入瀬渓流の魅力の一つは、流れと道路、歩道がすぐそばにあり、しかも段差が殆どないため、自分の目線で眺めることができます。このまま手をこまねいていると渓流美、景観が損なわれること必至なので、一日も早いバイパスの完成を願っています。



「奥入瀬渓流の自然を守ろう！」のシュプレヒコールで会場一体となり終了しました。



小笠原 慶子氏
十和田湖奥入瀬渓流観光ボランティアの会

- 国立公園内にある奥入瀬渓流では、「一木一草たりとも持ち帰ってはいけない」とガイドしている最中に、地元の方が山菜を探って平気な顔をしているのが気になっています。観光マナー、自然と接するマナーが大切だと感じています。



高橋 七海氏
青森県立三本木高校2年

- マイカー規制は必要だと思いますが、地元では観光客が減少するのではないかという心配もあります。是非そうならないよう、PRを充実するなど、地元観光業者へも配慮した形で進めて欲しいと思います。

奥入瀬渓流マイカー規制 混雑期 初の実施



「日数もっと増やして」
駐車場位置には注文も

多くの行楽客「歓迎」

特典サービス設け盛況



平成20年10月19日(日) / ディー・リード東北新聞社

マイカーが姿を消した奥入瀬渓流沿いの国道102号を散策する観光客
=18日午前11時半ごろ、阿蘇市の大丸付近



紅葉の奥入瀬渓流
マイカー規制実施

4年ぶり 大きな混乱なし

平成20年10月19日(日) / デーリー東北新聞社



奥入瀬渓流を巡る「足。」となったシャトルバスから降りる観光客=10日午後3時40分ごろ、鏡子大蛇バス停の「たどたど難な開秋。た根日の公が運化

四年ぶりの復活で、
秋の開光シーズンが開幕。
朝の実施は初めてだた
が、該年度のバスケット
競技や回り道を頼むら
にマイケル・ジョーダン
とは特に見られない。

後西暦三月の酒造業者による酒樽保光社にて、
「えだ」と書かれた木札が見つかりました。
この木札は、日本で牛馬の運送を担当する「相馬」の
酒樽を運んでいたことを示すものとされています。
この木札は、現在では「えだ」として知られています。

間は葛城一子
約四十日で、両
前九時から午
で行った。
車の大半を占
カーハガキを踏
やオトトイ
折車道を通
度高い静か
便たれシャ
から離りてゆ
策したり、自
を乗るとだ
運ぶるわ

**奥入瀬渓流
マイカー規制終了**

十九日のシャトル
利用客は約千七百
十四人で、過去最多
記録した前日の約一



平成20年10月22日(水) / デーリー東北新聞社

平成20年10月20日(月) / デーリー東北新聞社

あとがき

十和田八幡平国立公園『十和田湖・奥入瀬渓流』は、青森県民にとって最も支持されている景勝地であり、また紅葉日本一として多くの観光客でにぎわいます。

奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会は、今年はじめての取り組みとして、マイカー交通規制に併せた各種プログラムの企画を行いました。

国内他の国立公園では、上高地や尾瀬に代表されるように、マイカー交通規制に早くから取り組み、自然環境保全と観光振興を両立させている例があります。

奥入瀬渓流においても、マイカー交通規制だけでなく、同時にエコツーリズム視点での活動を官民一体となり継続的に取り組むことで、奥入瀬渓流の自然の奥深さや幅広い魅力をより多くの方々に知っていただく機会になればと考えています。

自然を尊重し、自然に感謝し、永続的に保全する努力を行うと同時に、自然を活かしたこれまでとは違う奥入瀬渓流観光の新たなイメージを全国に発信できるよう取り組んでまいります。

最後に、今回の併催イベント等実施に際し、県内外多くの企業の皆様から御協賛をいただきました。また、地元関係団体をはじめ、多くの関係機関スタッフの皆様に支えられ、無事終了することができました。

事務局、関係者一同、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

平成20年11月

奥入瀬渓流エコツーリズムプロジェクト実行委員会 会長
(社)十和田市観光協会会長 石川 正憲

協力企業・協力団体

エコツーリズムプロジェクトチーム員

県内外、多くの企業さまから御協賛頂きました。誠にありがとうございました。

※協賛金は、奥入瀬溪流マイカー交通規制併催イベントに係る費用に充てられました。

NTT東日本 青森支店

(株)角弘 上北農産加工農業協同組合 紺野建設(株) (株)青工
田中建設(株) 東北電力(株)青森支店 (有)ニタドリ (株)福萬組
丸井重機建設(株) みちのくコカ・コーラボトリング(株)
三菱製紙(株)八戸工場 ALLレンタルAOMORI

(財)済誠会 田中建設工業(株) 薦温泉売店 東北インテリジェント通信(株)

(財)十和田湖ふるさと活性化公社 十和田シティホテル 十和田食堂

(社)十和田青年会議所 十和田タクシー(株) (株)十和田ビルサービス (株)中達組
日本生命保健相互会社青森支社 八甲田農業協同組合 程川電気工事(株)
むつ小川原原燃興産(株) (株)吉田産業

※五十音順

「併催イベント」提供・協力

十和田湖観光汽船(株)／[シャトルバスチケット特典提供]

十和田観光電鉄(株)十和田湖双胴船／[シャトルバスチケット特典提供]

十和田湖国立公園協会商店部会／[シャトルバスチケット特典提供]

三菱自動車工業株式会社／[電気自動車試乗協力]

東京電力株式会社／[電気自動車試乗協力]

※順不同

「マイカー交通規制、併催イベント」スタッフ協力

(社)十和田市観光協会

十和田市交通指導隊

(社)十和田湖商工会

青森県警

NPO法人 十和田奥入瀬郷づくり大学

環境省

(財)十和田湖ふるさと活性化公社

十和田市

青森県立十和田西高等学校

青森県

大町桂月を語る会

休屋地区地元ボランティア

※順不同

お問い合わせ

奥入瀬溪流利用適正化協議会事務局

奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト実行委員会事務局

●代表／青森県県土整備部道路課整備推進グループ

TEL.017-734-9651

2010東北新幹線全線開業
TOHOKU SHINKANSEN LINE COMPLETION

